

# 「 純潔と幸福 」

皆さん、こんにちは。

今日は「純潔と幸福」という題目で説教をしていきます。

はじめに、聖書を拝読します。

神のみこころは、あなたがたが清くなることである。すなわち、不品行を慎み、各自、気をつけて自分のからだを清く尊く保ち、神を知らない異邦人のように情欲をほしいままにせず、また、このようなことで兄弟を踏みつけたり、だましたりしてはならない。前にもあなたがたにきびしく警告しておいたように、主はこれらすべてのことについて、報いをなさるからである。

神がわたしたちを召されたのは、汚れたことをするためではなく、清くなるためである。こういうわけであるから、これらの警告を拒む者は、人を拒むのではなく、聖霊をあなたがたの心に賜わる神を拒むのである。

(テサロニケ人への第一の手紙 4:3～8)

## 純潔の意味

皆さん、純潔を守ることの大切さを色々なところで言われてきたことと思います。

純潔とは何でしょうか？辞書で調べると、純潔とは「けがれがなく心が清らかなこと。また、異性との性的なまじわりがなく心身が清らかなこと。」と載っています。

お父様は純潔について次のように語っていらっしゃいます。

絶対者であられる神様が、絶対的基準の上で絶対的価値を付与するために、御自身の子女として創造した人間は、天道が要求する絶対基準の道を行かなければならないのです。絶対者であられる神様を父母として侍るために、行かなければならない宿命的路程の人生が必要だということです。言い換えれば、人間が神様に似て完成し、「絶対者の息子だ、娘だ」と呼ばれ得る人格者の姿を確保するには、天が定めておいた絶対的基準の道を歩まなければならないという意味です。その中で最も重要なものが正に絶対「性」の基準です。

第一には、結婚式の時まで守るべき絶対「性」、すなわち絶対純潔の基準です。人間は、誰もが生まれてから成長過程を経ていくようになります。父母の愛と保護のもと、比較的安安全全で無難な幼少年時代を経たのち、新しく躍動的な人生を出発する青少年期に入っていきます。外的に成人になるだけでなく、内的に人格完成を通じた絶対人間の道に入っていく

**瞬間なのです。それで、ここで人間なら誰でも例外なく守るべき絶対必要条件が正に純潔です。**

(『平和メッセージ 12』)

純潔を守るということは、つまり、私たちが祝福を受けて結婚して家庭を持っていく時まで、誰とも関係を持たずに心と体を清く保たなければならないということです。純潔は、成和学生の皆さんが絶対に守らなければならない最も大切なことの一つです。ですが、それが単なる禁止事項のようなものとして自分に与えられているだけでは、それを守ろうという強い意志は生まれてきません。何のために純潔を守らなければならないのかという、理由が大切です。

## **純潔を守る目的**

純潔は自分のために守るものではなく、相手のために守るものです。すなわち、近い将来に出会う、男性であれば未来の相対者のために、女性であれば未来の主体者のために守るのです。純潔を守るということを教えてくれる例え話があります。

「皆さんが一つのソフトクリームをもらいました。とても美味しそうなソフトクリームで、綺麗な形をしています。私はそれを心から食べたいと感じています。ところが、ソフトクリームをくれた人が、「これは色んな人が舐めたソフトクリームだ。だけどまだ綺麗だから、食べて良いよ」と言いました。一人目が舐め、二人目が舐め、三人目が舐め、何人舐めたか分からないソフトクリームが私のところに來たのです。皆さんはそのソフトクリームを食べたいと思いますか？」

この話を聞くと、当然「嫌だ」と感じると思います。純潔を守るということは、この例え話に似ています。世の中では、「多くの人と関係を持った方が、経験からどんな人と幸せになれるのか分かるようになる」と言ったりします。しかし、決してそんなことはありません。純潔を失うということは、未来のたった一人の相手に捧げる最も大切なものを失うということなのです。

高校生の皆さんであれば、あと 5 年ほどで、中学生の皆さんでもあと 10 年以内には祝福を受けていく年齢になっていくでしょう。それは決して遠い未来ではありません。あっという間にやってきます。その時のために、自分自身を清く保っていきましょう。

お父様は、次のように語っていらっしゃいます。

**青少年として墮落して汚れず、染まらずに、聖なる純潔を大切に保管して、これをどこに**

もっていくのでしょうか。天が最も喜ぶことのできる祭壇に掲げて神様が喜ぶ、そのような純潔をもった男性と女性が出会って一つに結ばれる貴い基台が、新郎新婦の会おう場にならなければなりません。

(『真の愛』第三章 愛と結婚)

## 理想相対

では、皆さんはどんな人と祝福を受けたら幸せになれると思いますか？男性であれば、美人の人が良いのでしょうか？性格の良い人が良いのでしょうか？女性であれば、背が高く格好良い人が良いのでしょうか？優しく将来性のあるような人が良いのでしょうか？色んな思い描く理想があるかもしれません。

お父様は、このことについて、次のように語っていらっしゃいます。

理想相対というのは、後日のことです。まず、自らを考えなければなりません。自分がどのようにすれば早く完成するのかということが問題なのです。理想相対ということは、相対の世界を連関させることなのですが、まず、自分が完全な主体となるのか、完全なる相対となるのかという決定をしないと、完全な理想相対は生まれてこないのです。ですから先だつ条件、先決問題が何かということ、自分自身が完成するということなのです。

皆さんが思春期になれば、異性を愛そうとするのですが、それより先に父母をもっと愛したという条件を立てなければならないのです。「孝行息子、孝行娘よ」と言われるようになれば、神様の愛と関係を結べるようになるのです。これが、原理原則です。創造原則なのです。

(『真なる子女の道』p.238~239)

全ての人が「自分にとって素晴らしい人」を相手に対して求めていたら、皆がそういう人と出会って幸せになっていくことはできません。自分自身が「相手にとって素晴らしい人」になるように、皆が努力していくことが、皆が幸せになっていく道だということです。その原則の道は、異性に関心を向ける以上に神様、真の父母様を思い、また親が喜ぶような親孝行者になっていくことです。親の目から見れば、親にとって酷い息子や娘を誰かの結婚相手にしたいとは思いませんよね。親から「お前は良い息子だ、良い娘だ」という認定を受けるということが一つの基準になるのです。

## 誘惑を乗り越える方法

では、どのようにしたら情欲の思いを乗り越えていくことができるのでしょうか。原理講論に「授受作用」という内容が出てきます。

あらゆる存在をつくっている主体と対象とが、万有原力により、相対基準を造成して、良く授け良く受ければ、ここにおいて、その存在のためのすべての力、すなわち、生存と繁

殖と作用などのための力を発生するのである。このような過程を通して、力を発生せしめる作用のことを授受作用という。

(『原理講論』第一章 創造原理)

授受作用をしなければ、力は湧いてきません。情欲の力もまた、自分の心とそのような対象と授受作用する時に湧いてきます。これが始まると、自分でも自分を抑えることができない状態になってきます。ですから、授受作用が起きる仕組みを正しく知ることが大切です。授受作用が起こる前には、「相対基準を造成する」というプロセスがあります。「相対基準を造成する」とは、相手と目的を同じくする、相手と関係を持つということになります。

「情欲の思いを我慢しよう」ということもまた、授受作用していることになり、力が湧いてきてしまいます。よって、そのような思いが強くなり易い思春期だからこそ、神様や真の父母様に目を向け、そのための勉強やスポーツに打ち込んでいくことが、情欲の思いに主管されない方法だと言えます。

## 思春期を正しく過ごす

それで、真の父母様は思春期を正しく過ごすように指導していらっしゃいます。最後に、そのみ言を紹介します。

皆さんはこの思春期をうまく過ごさなければなりません。生きんとするのは思春期であり、死なんとするのは死春期です。死のうとしてこれを抜け出れば、一回りして反対になれば、百八十度回転すれば死春期が変わって思春期になります。だからイエス様は死ぬ死春期を通して希望の春の日、新しい生きた春の日である新郎新婦の思春期に向かって歩んだのです。分かりますか？ このようになるのです。それが歴史です。

人間の墮落とは何ですか？神様を中心として春の日を迎えられないのです。そうでしょう？春の日が来たら、孝行者になろうという者たちが自分たちだけ春の日を迎えるのですか？父母を中心として「お父さん、お母さん！ きょうは春です。私たちと一緒にこの日を楽しみましょう」これこそ孝行者であり「お母さん、お父さん！ きょうは春の日ですが、春には昼寝をするのが適当です」と言って昼寝をさせておいて、自分たちだけで唄を歌ったり、踊りを踊ったりする連中が孝行者ですか、孝行者ではないですか？（孝行者ではありません）。孝行者でないばかりか、ろくでなしです。そうでしょう？

思春期は女性も男性も危ない時です。それゆえ、思春期に立場を誤って選択して一生を滅ぼすこともあれば、正しく選択して人生を豊かにすることもあるのです。そのような問題が起こるのです。

若い青春時代はほんの短い期間です。レバレンド・ムーンは最も貴い時を正しく過ごした人なのです。どんなことがプラスになるのでしょうか？ 若いときに遊びたいだけ遊び、踊りを踊ったり、そういうつまらないことに押し流されることでなく、迫害を受け、嘲笑さ

れ、真のものを本質化するためにこの道を行くのです。先生の路程は過去もそのようであり、未来もそうです。この道はいつも同じなのです。

(『二世の道』 p.143~145)

今日は、「純潔と幸福」という題目で説教をしていきました。以上で説教を終わります。ありがとうございました。